

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2016年3月4日

No.11

我々の努力と我慢がまだ足りないと言うのか！ 人材確保・流出防止に向けてベースアップを実施せよ！

～2016春闘 第3回交渉報告～

中央本部は本日9時30分より第3回交渉を行い、今次春闘における要求の根拠について明らかにしました。要求の根拠は以下の通りです。

- (1) 組合員の賃金実態は16年連続ペアゼロによって可処分所得は相対的に減少しており、JR各社と比較して大きな格差が生じている。このことから格差是正分として6000円のベースアップは当然の要求である。
- (2) 鉄道事業部門の黒字化を達成するためには、職場で働く組合員が働きやすい職場環境を整備するとともに、ベースアップのほかに55歳以上の賃金ダウンの改善、嘱託社員及び契約・臨時社員の賃金改善、人材確保のための初任給引き上げといった「人」に対する投資は経営陣として必要不可欠である。
- (3) 幹線列車の純平日の平均積載率80%、定時運行率も平均95%程度で推移している。輸送実績は計画値を下回っているものの、対前年比103%程度で推移している。組合員の日々の努力は数字によって明確になっている一方で、会社の施策実施にあたって時には血を流す苦渋の決断を行ってきた。経営陣は組合員の努力や苦勞に対して具体的な形で報いることは経営陣の責務である。
- (4) 自然災害や輸送障害にもJR貨物労組組合員は、全職種で要員需給が逼迫する中で安全と安定輸送の確保に向けて超過勤務や休日出勤を担い、荷主へのサービスレベルの維持向上に全力を挙げている。
- (5) 会社は、これまでの事業計画が未達になっていることについて経営責任を一切明確にしない。このことに将来不安を感じて退職を選択する社員が増加している。経営陣は組合員の不安を解消し、安心して働くことができる将来展望を明確に示すことが必須条件である。その示し方として「要求満額回答」という目に見える形で応えるべきである。

会社「現時点考え方を示すまでの議論は煮詰まっていけない！」

我々の要求根拠に対して会社は、「貨物労組の要求根拠や春闘に臨む姿勢については会社として認識している」とし、現段階の考え方を以下のように示しました。

- [1] 貴組合がこれまで会社施策に対して血をも流す判断をしていること、鉄道事業部門の黒字化に向けた施策の実施によって社員の業務量が増加していることは認識している。
- [2] 今年度の結果で鉄道事業部門の黒字化に向けた発射台が変わってくる。2月期の収入動向は計画に対して未達であるが、今年度の経常利益は達成できる見込みである。
- [3] 定年退職以外の退職が会社の想定より増加していることは認識している。人材確保に向けた貴組合の指摘は会社として重く受け止めている。

(次頁へ)

(前頁より)

組合「経営陣は身を切ってもベアの原資を確保せよ！」

会社の回答に対し中央本部は、

- ①月次収支はどうあっても今年度は黒字決算となる見込みであり、計画未達は経営陣の責任である。
- ②この間、新規採用の停止や働き度向上施策によって一人あたりの働き度は向上しているが、組合員の実質賃金は下がり続けている。これまで16年連続ベアゼロなど、人に対する投資を怠ってきた結果として将来展望に不安を感じ資格や技術力を持った「人材」の流出に歯止めが効かない状況である。このままでは労務倒産も現実味を帯びる危機的状況にある。
- ③貨物労組はこれまで鉄道事業部門の黒字化に向けて汗をかくとして、諸手当見直しや働き度向上施策を判断してきた。会社は我々に対してまだ我慢して協力しろと言うのか。経営陣と呼ばれる方々は汗をどのように流したのか。
- ④原資が無いというのであれば、経営陣は自らの身を切ってもベア原資を生み出し、新年度に向けてベースアップはもちろん、初任給の引き上げなど諸要求を実現し積極的な人への投資を通じて貨物会社の将来展望を明確にすること。本日の議論を真摯に受け止め、ベースアップの実施を含めた回答を示すことを通告し第3回交渉を終えました。

組合員のみなさん！16春闘は本日より闘争ゾーンに入ります。要求満額獲得・諸要求の実現に向けて、それぞれの職場から切実な「声」をこれからの闘いに結集させ、会社に対峙していかうではありませんか。中央本部は、その最先頭で奮闘していくことを申し上げ第3回交渉報告とします。

以 上

次回、第4回交渉は3月10日(木)です。